

取組の名称		自然資源を活かした教育・研究と生物多様性保全の地域中核拠点形成	
活動主体（団体名）		国立大学法人 東京農工大学	
活動主体（団体名）（フリガナ）		コクリツダイガクホウジン トウキョウノウコウダイガク	
取組の内容 （自由記述）	①概要	<p>①東京都の生物多様保全に関する調査研究と人材育成 都内をフィールドとして、生態系管理、野生動物管理、希少種保全、外来種対策などの研究を行っている。とくに大きな社会課題になるつつある野生動物との共存に関する専門人材を育成するため、野生動物管理教育プログラムを開講している。</p> <p>②生態系機能の向上を目指した計画的な緑地管理と生産活動 キャンパスの緑地保全管理を担う委員会を設置し、緑地管理ガイドラインを策定して、二次的自然を代表する生物の生息環境に配慮した緑地管理を行っている。附属施設の水田においては、農業を極力使わない水稲栽培を行うことで、水生昆虫やカエル類の生息場所を確保しているほか、一部を「水田ビオトープ」とすることで絶滅危惧植物の生育地外保全を行っている。</p> <p>③学生団体による生物多様性保全に関する取り組み 学生が主体となって、生物の生息環境に配慮した緑地管理作業や、生物の生息状況のモニタリング調査を行っている。また、サークル活動として、学内で捕獲したニホンミツバチを用いた養蜂を行ったり、自主学習教材として学内の樹木図鑑を作成するなどの取り組みも行われている。</p> <p>④大学の研究成果を活用した都市型農業の振興と新産業創出 水稲・果樹等の栽培、畜産、養蜂、営農型太陽光発電など都市環境と調和した生産技術の研究を行うとともに、生産物の直販を通じた地域貢献や、本学での生産物を利用した地域産業創出への協力を行っている。</p> <p>⑤大学の自然資源を活用した市民への啓発活動 キャンパスや附属施設がもつ自然資源を活用した市民講座を開講し、農業や生物多様性に関する啓発に取り組んでいる。</p>	
	②取組内容を確認できるURL（または資料添付）	広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター <a href="https://web.tuat.ac.jp/~fscenter/">https://web.tuat.ac.jp/~fscenter/</a> 野生動物管理教育研究センター <a href="https://web.tuat.ac.jp/~cwmer/index.html">https://web.tuat.ac.jp/~cwmer/index.html</a> 西東京国際イノベーション共創拠点 <a href="https://tuat-hub.com/">https://tuat-hub.com/</a>	
	③実施時期、頻度	通年	
	④活動場所（所在地）	農学部キャンパス（府中市幸町）、フィールドミュージアム府中（府中市幸町・天神町）、フィールドミュージアム本町（府中市本町）、フィールドミュージアム多摩丘陵（八王子市堀之内）	
	⑤活動の規模（参加者数）	約200人	
	⑥活動状況がわかる写真（撮影年月日）（既に実施している場合）※	 <p>学生団体「グリーン・キャンパス」による外来雑草の選択的除草</p> <p>2024年4月27日</p>	 <p>夏休み公開講座「こども樹木博士」</p> <p>2023年7月22日</p>
対応する社会課題 （該当する項目にチェック／複数選択可）	<input checked="" type="checkbox"/> 子供の福祉（子供の健やかな成長を社会全体でサポート）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 都民の健康・長寿（誰もが元気で心豊かに暮らせる地域の実現）		
	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ形成（誰もが集い、支え合うコミュニティを至るところに形成）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災／気候変動対策（地球温暖化に伴う豪雨や自然災害等の被害軽減）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 地域振興（東京全体の生産性、魅力向上）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 観光・文化振興（人々のウェルビーイング、東京のプレゼンス向上）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業の成長（危機に強い産業構造への転換）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 緑や水辺を生かした空間の創出／自然地保全・管理（都市機能を高め、世界を魅了）		
活用している生態系の機能 （該当する項目にチェック／複数選択可）	<input checked="" type="checkbox"/> 供給サービス（日々の暮らしに必要な資源を供給／食料、繊維、木材、水、薬品など）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 調整サービス（二酸化炭素の吸収）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 調整サービス（都市環境の質の向上／ヒートアイランド現象・暑熱環境の緩和）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 調整サービス（都市環境の質の向上／大気汚染や騒音の低下）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 調整サービス（災害の緩和／台風、洪水、津波、地滑り、雨水浸透、Eco-DRR）		
	<input type="checkbox"/> 調整サービス（水質の浄化／窒素やリンの吸収、有機物の取り込み）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 調整サービス（花粉媒介／植物の世代交代、農作物の収穫量の増加）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 文化的サービス（精神を豊かにする機能／芸術的・文化的なひらめき、教育的効果、心身のやすらぎ、観光レクリエーションなど）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 基盤サービス（生息・生育環境の提供）		
	<input checked="" type="checkbox"/> 基盤サービス（光合成による酸素の生成）		
<input checked="" type="checkbox"/> 基盤サービス（地力の維持及び栄養循環）			

<p>貢献の内容 (自由記述)</p>	<p>①人間の幸福に対して</p>	<p>本学は自然資源を持続的に活用する営みである農林畜産業や、それを取りまく環境についての先進的な研究と、それらの専門人材の育成を通じて、NbSアクションに幅広く貢献している。本学キャンパスや付属施設の農地は、一般市民への環境教育の場として活用されるほか、都市域における貴重な緑地として市民の生活環境の維持にも寄与している。2022年には「野生動物管理教育研究センター」を設立し、昨今社会問題となっている野生動物と人間活動の軋轢を解決するための専門人材の育成に取り組んでいる。また、本学が開発した水稻新品種による日本酒醸造に代表されるように、研究成果を活用した都市型農業の振興や地域産業の創出にも大きく貢献している。2025年には「西東京国際イノベーション共創拠点」を設置し、ネイチャーポジティブな社会の実現につながる産官学連携の取り組みを支援する体制を整えている。</p>
	<p>②生物多様性に対して</p>	<p>本学が都内に保有するキャンパスや農場は、多くの動植物に生息・生育地を提供しており、地域の生物多様性の維持に対して大きく貢献している。このうち府中市にある農学部キャンパスとフィールドミュージアム本町（水田）は、「里山里地といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場」「希少な動植物種が生息生育している場」「生態系サービス提供の場であって在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場」「越冬、休息、繁殖、採餌、移動（わたり）など動物の生活史にとって重要な場」という4つの観点から価値が認められ、2025年9月に自然共生サイトに認定されている。府中キャンパスには、250種以上の在来植物が記録されているほか、猛禽類や哺乳類の営巣場所としても利用されるなど、近隣の大規模都市緑地と比べても遜色ない生物多様性を有している。こうした環境を維持するため、生物の生息環境に配慮した緑地管理や、学生主体の生物のモニタリング活動を実施することによって、生物多様性の保全につとめている。また、研究面では伊豆・小笠原諸島の外来種対策や都立公園における緑地管理などについて、都と連携した生物多様性関連の研究活動を展開している。さらには、生物多様性に関する専門的知見をもつ教員が、都の現存植生図整備や外来種対策リストの作成に対する技術的助言を行ったり、都内の市区の環境審議会や協議会に委員として参画することによって、生物多様性保全関連施策の推進に貢献している。</p>